

7.9 動物

7.9.1 調査概要

当該処分場は平成 14 年 7 月より稼動しており、埋立てする区域は既に裸地化していることから、調査範囲を事業計画地から周囲に概ね 500m 拡げ、事業計画地及びその周辺における動物調査を実施した。

また、調査方法及び調査期間は表 7-9-1 に、調査位置は図 7-9-1～図 7-9-5 に示すとおりである。

表 7-9-1 動物調査概要

調査項目	調査方法	調査位置	調査期間	備考
哺乳類	・目撃法 ・フィールドサイン法	事業計画地及び その周辺	平成 17 年 10 月 12 日～13 日 (秋季), 平成 17 年 12 月 19 日 (冬季), 平成 18 年 4 月 3 日, 6 日 (春季), 平成 18 年 7 月 4 日 (夏季)	調査位置 図 7-9-1
	・トラップ法	5 地点 事業計画地内 : 3 地点 事業計画地外 : 2 地点	平成 17 年 10 月 12 日～14 日 (秋季), 平成 17 年 12 月 19 日～21 日 (冬季), 平成 18 年 4 月 3 日～5 日 (春季), 平成 18 年 7 月 12 日～14 日 (夏季)	
鳥類	・ラインセンサス法	3 ルート 事業計画地内 : 1 ルート 事業計画地外 : 2 ルート	平成 17 年 10 月 19 日 (秋季), 平成 18 年 2 月 20 日 (冬季), 平成 18 年 4 月 4 日 (春季), 平成 18 年 7 月 10 日 (夏季)	調査位置 図 7-9-2
	・定点観察法	2 定点 事業計画地内 : 1 定点 事業計画地外 : 1 定点		
	・任意観察法	事業計画地及び その周辺		
	・重要種調査	事業計画地及び その周辺	平成 18 年 1 月～9 月	
爬虫類	・任意観察法	事業計画地及び その周辺	平成 17 年 10 月 12 日～13 日 (秋季), 平成 18 年 4 月 3 日, 6 日 (春季), 平成 18 年 7 月 4 日 (夏季)	調査位置 図 7-9-3
両生類	・任意観察法			
昆虫類	・任意採集法	事業計画地及び その周辺	平成 17 年 10 月 18 日, 20 日 (秋季), 平成 18 年 5 月 8 日～9 日 (春季), 平成 18 年 8 月 17 日, 25 日 (夏季)	調査位置 図 7-9-4
	・ベイトトラップ法	5 地点 事業計画地内 : 3 地点 事業計画地外 : 2 地点	平成 17 年 10 月 12 日～13 日 (秋季), 平成 18 年 5 月 8 日～9 日 (春季), 平成 18 年 8 月 17 日～18 日 (夏季)	
	・ライトトラップ法	2 地点 事業計画地内 : 1 地点 事業計画地外 : 1 地点	平成 17 年 10 月 12 日, 18 日 (秋季), 平成 18 年 5 月 8 日, 16 日 (春季), 平成 18 年 8 月 16 日, 25 日 (夏季)	
	・ギフチョウ調査	事業計画地及び その周辺	平成 18 年 6 月 2 日	
魚類	・直接観察 ・捕獲法	河川 3 地点 事業計画地内 : 1 地点	平成 18 年 4 月 17 日 (春季), 平成 18 年 8 月 28 日 (夏季)	調査位置 図 7-9-5
	・底生動物 ・定量採集 ・定性採集	事業計画地外 : 2 地点	平成 18 年 2 月 10 日 (冬季)	

なお、各調査方法は、注) として次ページに示した。

注) 各調査方法の概略は、以下に示すとおりである。

【哺乳類】

- ・目撃法・フィールドサイン法：事業計画地及びその周辺を任意に踏査し、姿、フィールドサイン（糞、足跡、巣、爪痕、モグラ塚等の生息痕跡）により識別し、種類等を記録する。
- ・トラップ法：ネズミ類等の小型哺乳類を対象として、餌（ピーナッツ等）を入れたトラップを設置し、捕獲された種類を記録する。

【鳥類】

- ・ラインセンサス法：事業計画地及びその周辺に設定した調査定線上を、ゆっくり歩行しながら、出現する鳥類を姿や鳴き声により識別し、種類等を記録する。
- ・定点観察法：事業計画地及びその周辺の眺望の良い定点からの観察により、出現する鳥類の種類、個体数等を記録する。
- ・任意観察法：事業計画地及びその周辺を任意に踏査し、出現する鳥類を姿や鳴き声により識別し、種類等を記録する。
- ・重要種調査：事業計画地及びその周辺の眺望の良い地点からの観察により、主に重要種を対象として、出現する鳥類の種類、行動等を記録する。

【爬虫類】

- ・任意観察法：事業計画地及びその周辺を任意に、爬虫類の習性をふまえた場所（草むら付近の細道、ガレ場、耕作地等）をできるだけ踏査し、目撃（成体、幼体、死体等）等により識別し、種類等を記録する。

【両生類】

- ・任意観察法：事業計画地及びその周辺を任意に、両生類の習性をふまえた場所（水たまり、細流、水田等）をできるだけ踏査し、目撃または鳴き声、卵塊、幼生等により識別し、種類等を記録する。

【昆虫類】

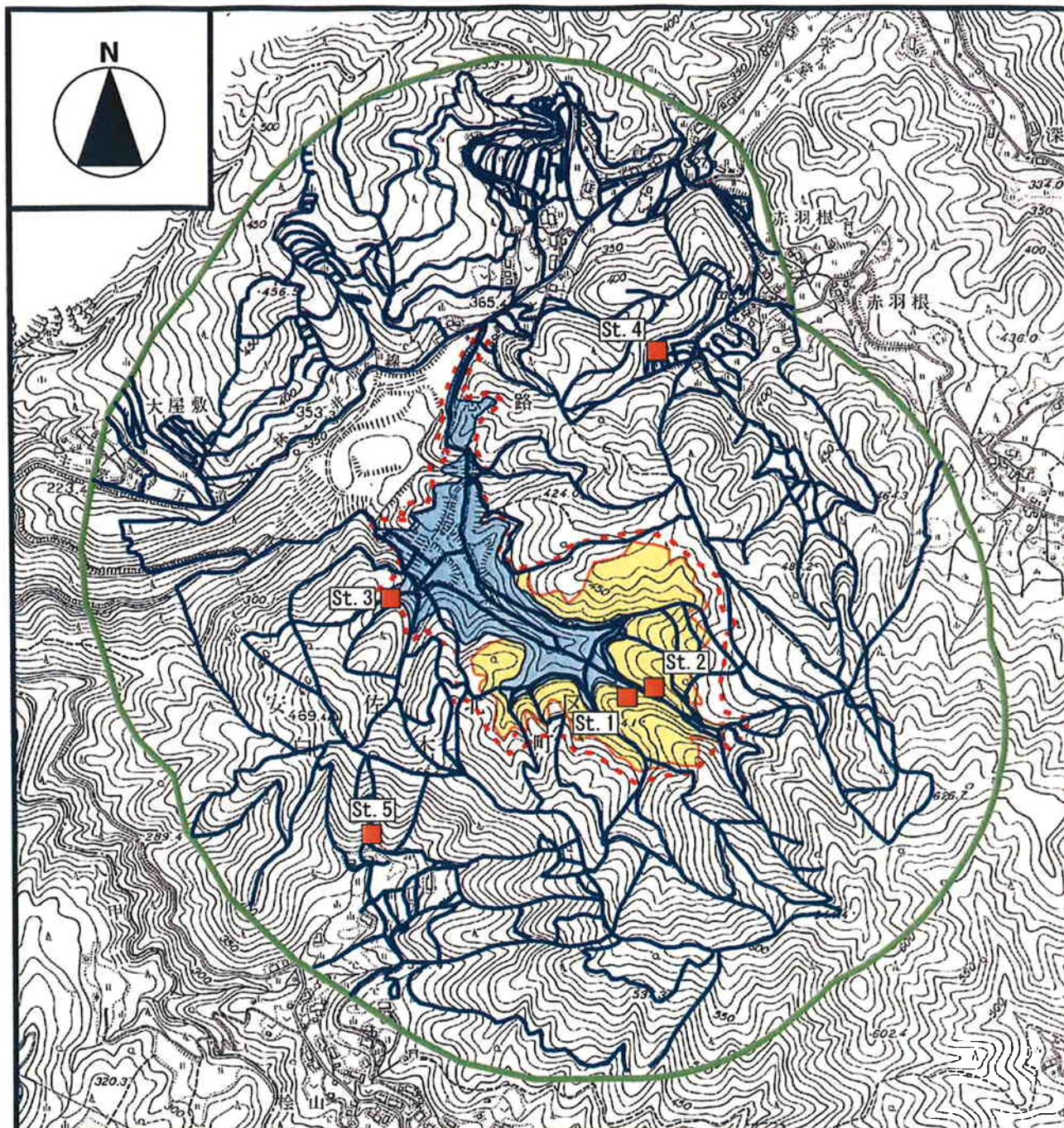
- ・任意採集法には以下の方法が含まれる。
 - 見つけ採り：昆虫を肉眼で見つけて、捕虫網を用いて、採集する。
 - 目撃法：トンボ類、チョウ類等の大型で目立つ昆虫や鳴き声をだす昆虫を、目撃あるいは鳴き声により識別する。
 - スウィーピング法：捕虫網を用いて、草木の上や茂み等に静止している昆虫類をすくい採る。
 - ビーティング法：木の枝や茂みを叩いて昆虫類を落下させて、ネット（方形状の平網）で受けとめ採集する。
 - その他：石や倒木を起こして下に潜む昆虫類、あるいは倒木や落ち葉の中の昆虫類を探し出し採集する。
- ・ベイトトラップ法：徘徊性の昆虫類（アリ類、ゴミムシ類等）を対象にして、口が地表面に揃うように餌（糖蜜等）を入れたプラスチックコップを埋設し、そこに落ち込んだ昆虫類を採集する。
- ・ライトトラップ法：夜行性の昆虫類（ガ類、ユスリカ類等）を対象にして、白い布に黒色灯と白色灯の光を反射させ、布に集まった昆虫類を採集する。
- ・ギフチョウ調査：事業計画地及びその周辺を任意に踏査し、本種の幼虫の食草であるカンアオイ類（本調査地ではミヤコアオイ）の葉を探し、産卵及び幼虫の有無あるいは状況を記録する。

【魚類】

- ・直接観察：陸上より目視観察し、生息種の確認に努める。
- ・捕獲法：タモ網、セルピンを用いて捕獲し、種類等を記録する。

【底生動物】

- ・定量採集：流速 1.0～1.5m/sec 程度、水深 0.3～0.5m程度の浅瀬の地点で、25 cm×25 cmのコドラート（方形状の金枠）を川底に設置し、コドラート内の石、砂礫中に生息するものを金網で受け取り、肉眼で確認できる生物を全て採集する。
- ・定性採集：タモ網を使用し、瀬の礫下の他、落ち葉の貯まった淀みや植物の冠水部分等、いろいろな場所で採集する。



一 凡 例	
	事業計画地
	改変区域（現在）
	改変区域（計画）
	動植物調査範囲
	踏査ルート
	トラップ法調査位置

注）トラップ法の調査位置は以下のとおりである。
 事業計画地内：St. 1～3
 事業計画地外：St. 4～5

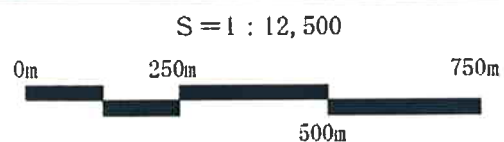


図 7-9-1 哺乳類調査位置図

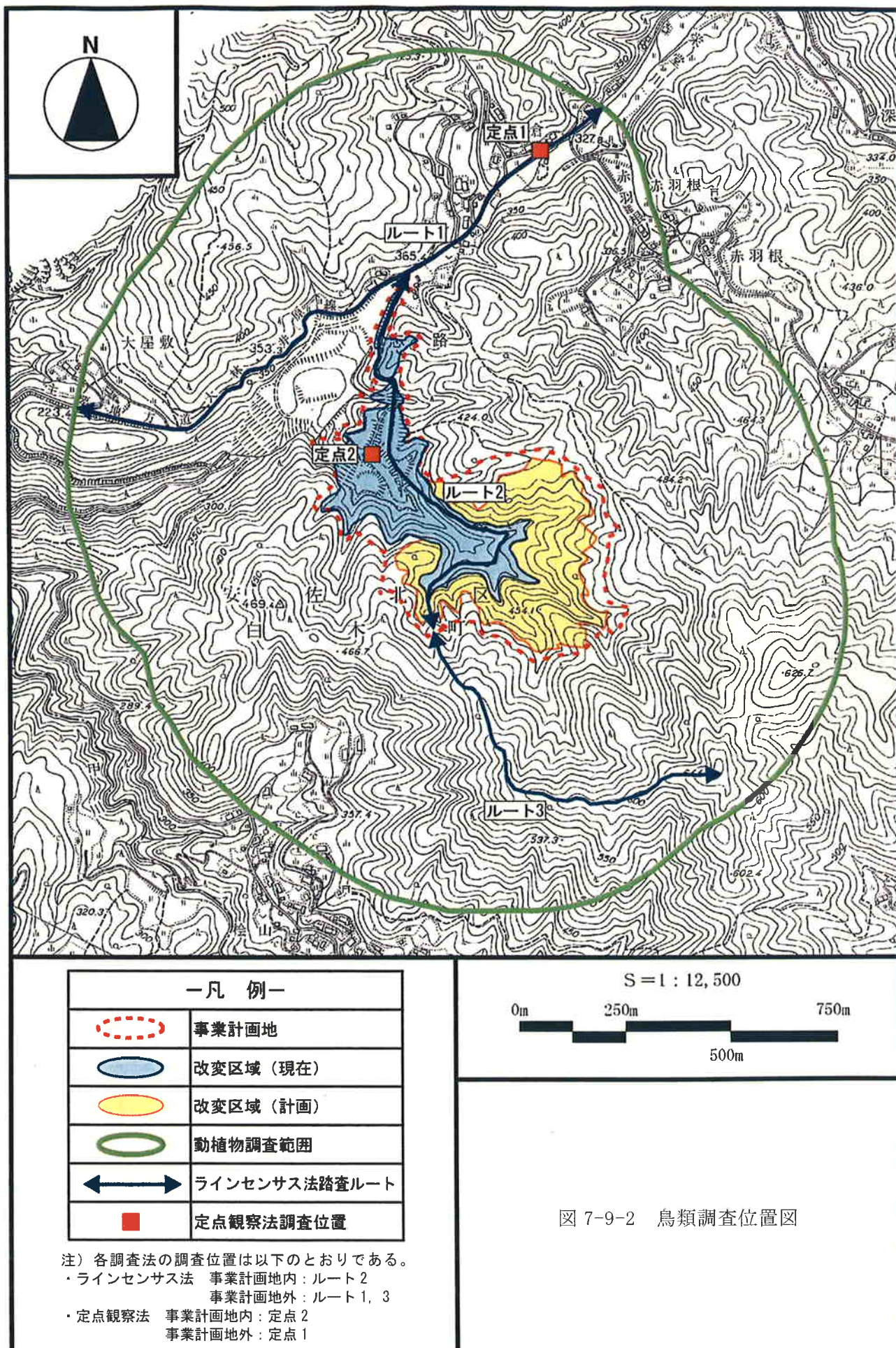
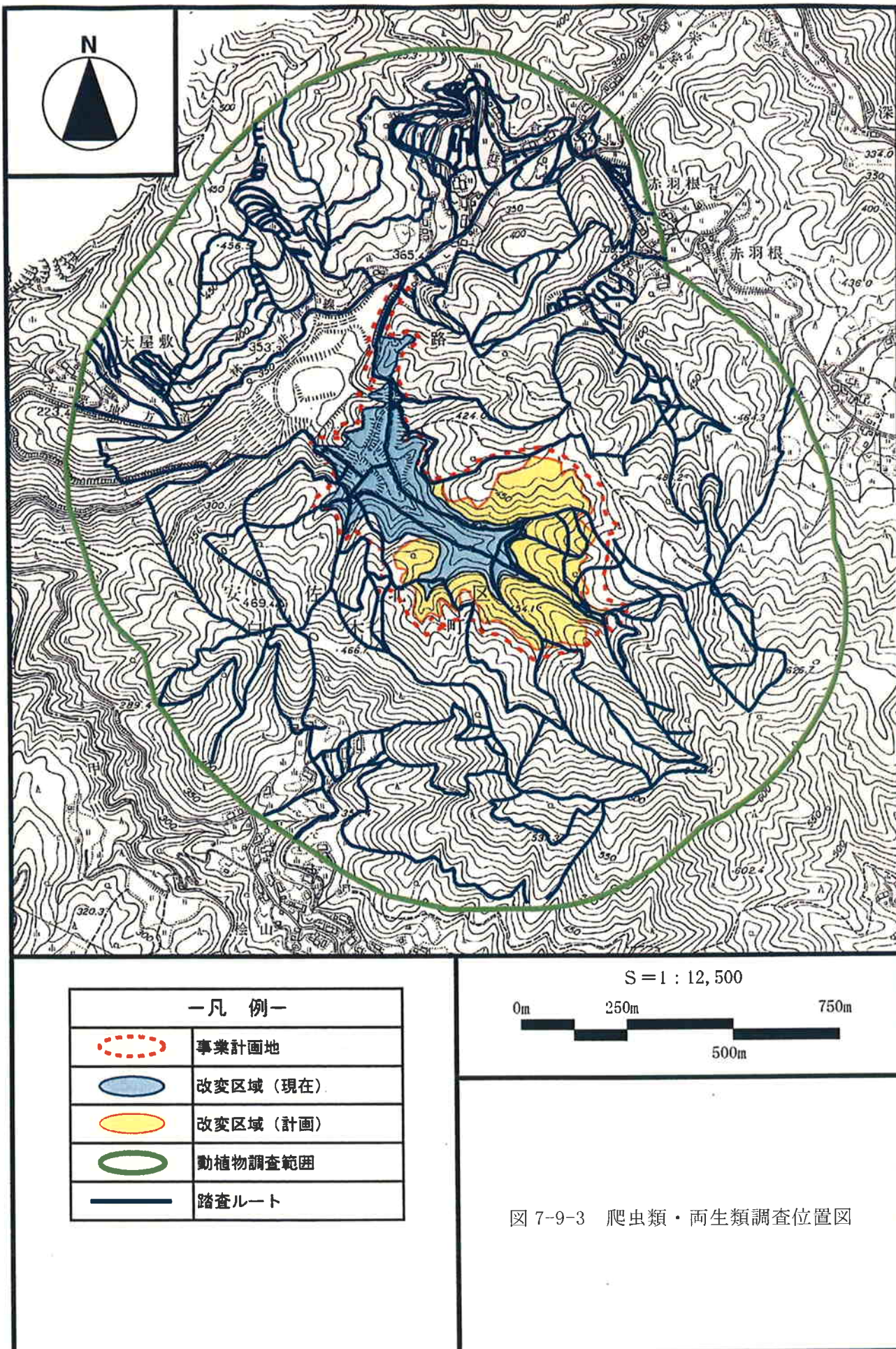
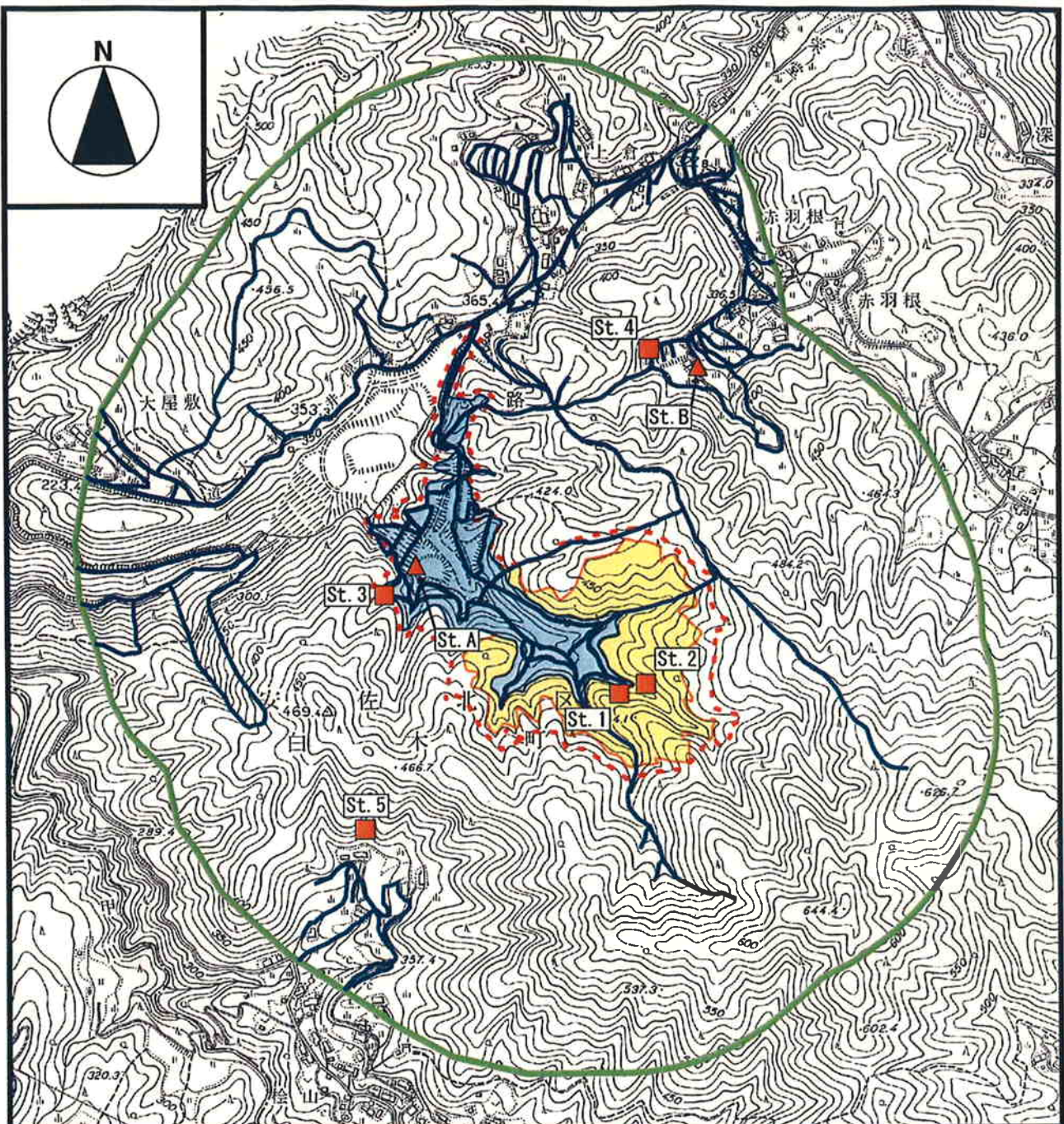


図 7-9-2 鳥類調査位置図





一 凡 例	
	事業計画地
	変更区域（現在）
	変更区域（計画）
	動植物調査範囲
	踏査ルート
	ベイトトラップ法調査位置
	ライトトラップ法調査位置

注）各調査法の調査位置は以下のとおりである。

- ・ベイトトラップ法 事業計画地内：St. 1～3
事業計画地外：St. 4～5
- ・ライトトラップ法 事業計画地内：St. A
事業計画地外：St. B

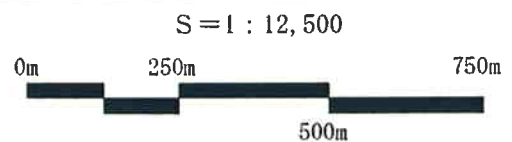
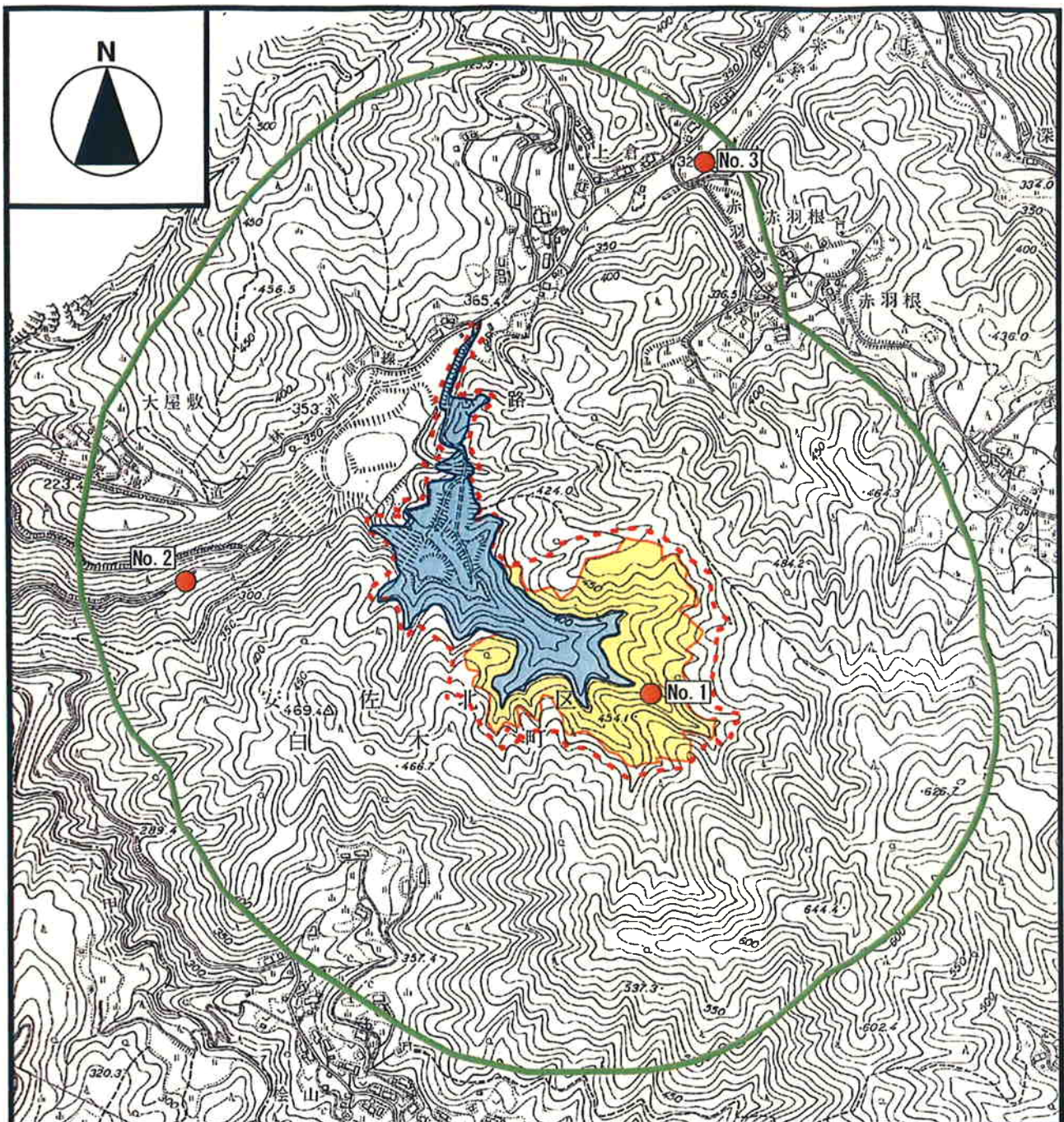


図 7-9-4 昆虫類調査位置図



一 凡 例	
	事業計画地
	改変区域（現在）
	改変区域（計画）
	動植物調査範囲
	調査位置

注）魚類と底生動物調査は同じ位置で実施した。
 調査位置は以下のとおりである。
 事業計画地内：No. 1
 事業計画地外：No. 2～3

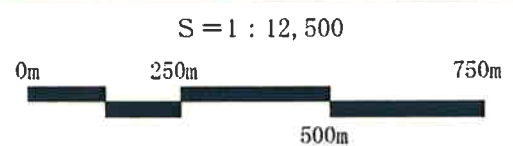


図 7-9-5 魚類・底生動物調査位置図

7.9.2 調査結果

(1) 哺乳類

① 生息確認種

事業計画地及びその周辺で確認された哺乳類は表 7-9-2 に示すとおり、事業計画地内では 4 目 6 科 9 種、事業計画地外では 6 目 8 科 11 種であり、合計は 7 目 9 科 13 種であった。

確認種は、ヒミズ、アカネズミ、テン等のように主に農耕地周辺から林縁に生息する種、ニホンザルのように広葉樹林帯を主生息域とする種、ノウサギ等のように主に森林に生息する種、タヌキ、ニホンイノシシ、ニホンジカのように人里周辺の森林に生息する種等であり、主として森林と農耕地で構成された現地環境を反映した結果となっていた。

特にニホンジカが多く確認され、事業計画地内、山地、農耕地周辺等様々な環境で姿や足跡、糞等の痕跡が確認された。

表 7-9-2 哺乳類の確認種

目名	科名	種名	調査時季				事業計画地内	事業計画地外
			秋季	冬季	春季	夏季		
モグラ	モグラ	ヒミズ			●			●
		モグラ科の一種	●		●	●		●
コウモリ	—	コウモリ目の一種				●	●	
サル	オナガザル	ニホンザル	●	●	●			●
ウサギ	ウサギ	ノウサギ		●	●			●
ネズミ	ネズミ	アカネズミ				●	●	●
		ヒメネズミ	●	●	●	●	●	●
		カヤネズミ				●		●
		ネズミ科の一種		●				●
ネコ	イヌ	タヌキ	●	●	●		●	●
	イタチ	テン	●	●	●	●	●	●
		アナグマ				●	●	
		イタチ属の一種		●	●	●	●	●
ウシ	イノシシ	ニホンイノシシ	●		●	●	●	●
	シカ	ニホンジカ	●	●	●	●	●	●
合計 7 目 9 科 13 種			7 種	7 種	9 種	10 種	9 種	11 種

- 注) 1. 「モグラ科の一種」及び「ネズミ科の一種」は、同一科内の他種が確認されている場合、種数として計上していない。
 2. 「コウモリ目の一種」は、バットディテクタにより周波数 40～50Hz 付近で反応したため、アブラコウモリ（ヒナコウモリ科）の可能性がある。
 3. 「イタチ属の一種」はイタチまたはチョウセンイタチの可能性がある。

② トラップ調査結果

トラップ法により捕獲された哺乳類は表 7-9-3 に示すとおり、事業計画地内外ともに 1 目 1 科 2 種であった。

表 7-9-3 トラップにより確認された哺乳類

目名	科名	種名	調査地点				
			事業計画地内			事業計画地外	
			St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5
ネズミ	ネズミ	アカネズミ			●	●	
		ヒメネズミ	●	●	●		●
合計 1 目 1 科 2 種			1 種	1 種	2 種	1 種	1 種

(2) 鳥類

事業計画地およびその周辺で確認された鳥類は表 7-9-4(1) 及び表 7-9-4(2) に示すとおり 12 目 26 科 68 種であり、ラインセンサス法で 5 目 17 科 35 種、定点観察法で 6 目 16 科 30 種、任意観察法で 8 目 20 科 35 種、重要種調査で 11 目 25 科 65 種が確認された。

確認された鳥類は県内では比較的高標高地に生息するアカショウビン、ゴジュウカラ、コガラや主に低標高地に生息するコジュケイ等が確認され、低標高から高標高に移行する地域である本調査地の地域性を反映させる結果となった。

表 7-9-4(1) 鳥類の確認種

目名	科名	種名	ラインセンサス法			定点観察法		任意観察法	重要種調査	その他
			ルート1	ルート2	ルート3	定点1	定点2			
コウノトリ	サギ	ゴイサギ							●	
		アオサギ				●		●	●	
カモ	カモ	カルガモ							●	
タカ	タカ	ミサゴ							●	
		ハチクマ							●	
		トビ				●		●	●	
		オオタカ							●	
		ハイタカ					●	●	●	
		ノスリ		●					●	
		サシバ	●	●					●	
	ハヤブサ	ハヤブサ						●	●	
		コジュケイ							●	
キジ	キジ	ヤマドリ							●	●
		キジ						●	●	
		クサシギ					●		●	
チドリ	シギ	ヤマシギ							●	
		タシギ							●	
		キジバト	●		●	●	●	●	●	
ハト	ハト	アオバト							●	
		ツツドリ							●	
カッコウ	カッコウ	ホトトギス		●				●		●
フクロウ	フクロウ	フクロウ						●	●	
アマツバメ	アマツバメ	アマツバメ							●	
ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン								●
キツツキ	キツツキ	アオゲラ	●		●		●	●	●	
		オオアカゲラ							●	
		コゲラ	●	●	●	●		●	●	
スズメ	ツバメ	ツバメ	●	●		●			●	
		イワツバメ							●	
	セキレイ	キセキレイ	●	●		●	●	●	●	
		セグロセキレイ	●	●		●	●	●	●	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	●	●	●	●	●	●	●	
	モズ	モズ	●			●		●	●	
	ヒタキ	ルリビタキ							●	
		ジョウビタキ						●	●	
		ノビタキ						●	●	
		イソヒヨドリ							●	
		トラツグミ							●	
		シロハラ	●	●	●	●		●	●	
		ツグミ		●	●	●			●	
		ヤブサメ		●					●	

表 7-9-4(2) 鳥類の確認種

目名	科名	種名	ラインセンサス法			定点観察法		任意 観察法	重要種 調査	その他
			ルート 1	ルート 2	ルート 3	定点 1	定点 2			
スズメ	ヒタキ	ウグイス	●	●		●		●	●	
		センダイムシクイ		●					●	
		キクイタダキ	●	●		●			●	
		キビタキ							●	
		オオルリ	●	●	●	●		●	●	
		サンコウチョウ						●	●	
	エナガ	エナガ	●	●	●	●		●	●	
	シジュウカラ	コガラ		●	●			●	●	
		ヒガラ			●				●	
		ヤマガラ	●	●	●	●		●	●	
		シジュウカラ	●	●	●	●		●	●	
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ		●				●	●	
	メジロ	メジロ	●	●				●	●	
	ホオジロ	ホオジロ	●	●		●	●	●	●	
		カシラダカ							●	
		ミヤマホオジロ	●			●			●	
		アオジ	●		●	●		●	●	
	アトリ	アトリ							●	
		カワラヒワ	●	●	●	●	●	●	●	
		マヒワ		●				●	●	
		ウソ				●				
		イカル		●	●	●		●	●	
	ハタオリドリ	スズメ	●			●		●	●	
	ムクドリ	ムクドリ							●	
	カラス	カケス	●	●	●	●		●	●	
		ハシボソガラス	●	●		●	●	●	●	
		ハシブトガラス	●	●	●	●	●	●	●	
合計	12 目 26 科 68 種	種数	25 種	28 種	17 種	27 種	11 種	35 種	65 種	3 種
		合計	5 目 17 科 35 種			6 目 16 科 30 種				

注) 1. 確認欄の“その他”は鳥類調査以外の項目調査時(哺乳類、植物等)に確認した鳥類を種数として計上した。

(3) 爬虫類

事業計画地及びその周辺で確認された爬虫類は表 7-9-5 に示すとおり、事業計画地内では 1 目 3 科 4 種、事業計画地外では 1 目 4 科 7 種であり、合計は 1 目 4 科 7 種であった。

確認種は、カナヘビ、トカゲのように主に林内、畑、林縁部の草むらや藪等に生息する種、シマヘビ、ヒバカリ、ヤマカガシ、マムシのように平地から低山の草地、耕地、林内に生息する種、ジムグリのように山地や耕地のやや日陰に生息する種で構成されており、いずれも県内では比較的広く分布する種であった。

表 7-9-5 爬虫類の確認種

目名	科名	種名	調査時季			事業計画地内	事業計画地外
			秋季	春季	夏季		
トカゲ	トカゲ	トカゲ		●	●	●	●
	カナヘビ	カナヘビ	●	●	●		●
	ヘビ	シマヘビ	●	●	●	●	●
		ジムグリ	●		●		●
		ヒバカリ	●				●
		ヤマカガシ	●			●	●
	クサリヘビ	マムシ	●		●	●	●
合計 1 目 4 科 7 種			6 種	3 種	5 種	4 種	7 種

(4) 両生類

事業計画地及びその周辺で確認された両生類は表 7-9-6 に示すとおり、事業計画地内では 2 目 4 科 5 種、事業計画地外では 2 目 5 科 8 種であり、合計は 2 目 5 科 8 種であった。

確認種は、ブチサンショウウオのようにきれいな水が流れる小溪流に生息する種、イモリのようにため池や水田等の止水域に生息する種、アマガエル、トノサマガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル等は水田や畦、用水路等に生息する種、タゴガエルのように溪流沿いの森林で生息する種、ヤマアカガエルは水田やその周辺の草むらや林床に生息する種で構成されており、いずれも県内では比較的広く分布する種であった。

表 7-9-6 両生類の確認種

目名	科名	種名	調査時季			事業計画地内	事業計画地外
			秋季	春季	夏季		
サンショウウオ	サンショウウオ	ブチサンショウウオ		●			●
	イモリ	イモリ	●	●	●	●	●
カエル	アマガエル	アマガエル	●	●	●	●	●
	アカガエル	タゴガエル	●		●	●	●
		ヤマアカガエル	●	●	●	●	●
		トノサマガエル	●	●	●		●
		ツチガエル		●	●		●
		アカガエル科の一種		●	●		●
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル		●	●	●	●
合計 2 目 5 科 8 種			5 種	7 種	7 種	5 種	8 種

注) 1. 「アカガエル科の一種」は、同一科内の他種が確認されている場合、種数として計上していない。

(5) 昆虫類

① 生息確認種

事業計画地及びその周辺で確認された昆虫類は、表 7-9-7(1)～表 7-9-7(5)に示すとおり、事業計画地内では 13 目 130 科 382 種、事業計画地外では 19 目 187 科 632 種であり、合計は 19 目 213 科 793 種であった。

確認された昆虫類の大部分は、広島市北部の丘陵地，低山地から山地にかけて普通に生息する種であった。目別にみるとチョウ目、コウチュウ目、カメムシ目の種数が多くなっていた。

表 7-9-7(1) 昆虫類の確認種

目名	科名	種名	種数		
			事業計画地内	事業計画地外	合計 注 1)
トビムシ	イボトビムシ	イボトビムシ科の一種	1	1	1
	ツチトビムシ	ヒメツチトビムシ亜科の一種 他	2	1	2
	トゲトビムシ	<i>Tomocerus</i> 属の一種(数)種	1	1	1
	アヤトビムシ	<i>Entomobrya</i> 属の一種(数)種 他	1	2	2
	マルトビムシ	<i>Ptenothrix</i> 属の一種	1	1	1
イシノミ	イシノミ	<i>Pedetontinus</i> 属の一種 他	0	2	2
カゲロウ	フタオカゲロウ	ガガンボカゲロウ	0	1	1
	ヒトリガカゲロウ	チラカゲロウ	0	1	1
	ヒラタカゲロウ	ヒラタカゲロウ科の数種	0	1	1
	カワカゲロウ	キイロカワカゲロウ	1	1	1
	モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	0	1	1
	マダラカゲロウ	オオマダラカゲロウ	0	1	1
トンボ	イトトンボ	オオイトトンボ	1	0	1
	アオイトトンボ	ホソミオツネイトンボ 他	0	2	2
	カワトンボ	ミヤマカワトンボ 他	1	2	2
	オニヤンマ	オニヤンマ	1	1	1
	ヤンマ	コシボソヤンマ 他	0	2	2
	エゾトンボ	コヤマトンボ	0	1	1
	トンボ	シオカラトンボ 他	8	9	9
カワゲラ	オナシカワゲラ	<i>Amphinemura</i> 属の一種 他	0	3	3
	ハラジロオナシカワゲラ	<i>Paraleuctra</i> 属の一種	0	1	1
	カワゲラ	<i>Kiotina</i> 属の一種	0	1	1
ゴキブリ	チャバネゴキブリ	モリチャバネゴキブリ	0	1	1
カマキリ	カマキリ	コカマキリ	1	1	1
シロアリ	ミゾガシラシロアリ	ヤマトシロアリ	0	1	1
バッタ	カマドウマ	カマドウマ 他	1	2	2
	コオロギ	ハラオカメコオロギ 他	8	9	10
	クサヒバリ	クサヒバリ 他	0	2	2
	スズムシ	スズムシ	0	1	1
	マツムシ	アオマツムシ 他	1	1	2
	カンタン	ヒロバネカンタン 他	1	2	2
	キリギリス	カヤキリ 他	7	11	12
	オンブバッタ	オンブバッタ	1	1	1
	バッタ	トノサマバッタ 他	7	8	11
	ヒシバッタ	トゲヒシバッタ 他	4	4	5

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

表 7-9-7(2) 昆虫類の確認種

目名	科名	種名	種数		
			事業計 画地内	事業計 画地外	合計 注1)
ナナフシ	ナナフシ	エダナナフシ	0	1	1
ハサミムシ	クロハサミムシ	チビハサミムシ	0	1	1
チャタテムシ	ホソチャタテ	ハグルマチャタテ 他	2	1	2
カメムシ	ヒシウンカ	ヤナギカワウンカ	0	1	1
	ウンカ	エゾナガウンカ 他	0	3	3
	シマウンカ	シマウンカ	0	1	1
	ハネナガウンカ	アカメガシワハネビロウンカ	0	1	1
	コガシラウンカ	ナワコガシラウンカ	1	0	1
	グンバイウンカ	タテスジグンバイウンカ	0	1	1
	マルウンカ	キボシマルウンカ 他	0	2	2
	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ 他	1	2	2
	ハゴロモ	ベッコウハゴロモ 他	2	2	3
	セミ	アブラゼミ 他	5	6	6
	アワフキムシ	シロオビアワフキ 他	0	4	4
	ツノゼミ	トビイロツノゼミ	0	1	1
	ミミズク	コミミズク	1	0	1
	アオズキンヨコバイ	アオズキンヨコバイ 他	0	2	2
	ブチミヤクヨコバイ	ブチミヤクヨコバイ	1	0	1
	オサヨコバイ	オサヨコバイ	0	1	1
	オオヨコバイ	ツマグロオオヨコバイ 他	2	3	3
	ヒメヨコバイ	スズキヒメヨコバイ 他	2	8	8
	ヨコバイ	アカカスリヨコバイ 他	2	6	6
	アブラムシ	マメアブラムシ 他	2	0	2
	アメンボ	シマアメンボ 他	5	3	5
	ミズムシ	コミズムシ	1	1	1
	マツモムシ	マツモムシ	1	1	1
	カスミカメムシ	ズアカシダカスミカメムシ 他	3	8	9
	グンバイムシ	トサカグンバイ	0	1	1
	サシガメ	ビロウドサシガメ	1	0	1
	ナガカメムシ	ホソメダカナガカメムシ 他	3	5	7
	メダカナガカメムシ	メダカナガカメムシ	0	1	1
	ホシカメムシ	フタモンホシカメムシ	1	0	1
	オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ 他	1	2	2
	ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ 他	1	1	2
	ヘリカメムシ	ヒメトゲヘリカメムシ 他	2	4	5
	ヒメヘリカメムシ	アカヒメヘリカメムシ 他	0	3	3
	マルカメムシ	マルカメムシ	1	1	1
	ツチカメムシ	ヨコツナツチカメムシ 他	2	3	3
	カメムシ	オオクロカメムシ 他	4	12	12
	エビイロカメムシ	エビイロカメムシ	0	1	1
	ツノカメムシ	セアカツノカメムシ 他	3	4	5
アミメカゲロウ	ヘビトンボ	ヘビトンボ	1	0	1
	センブリ	<i>Sialis</i> 属の一種	0	1	1
	ヒロバカゲロウ	ヒロバカゲロウ科の一種	1	1	1
	クサカゲロウ	クサカゲロウ科の一種	0	1	1
	ツノトンボ	オオツノトンボ	0	1	1

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

表 7-9-7(3) 昆虫類の確認種

目名	科名	種名	種数		
			事業計 画地内	事業計 画地外	合計 注 1)
コウチュウ	ハンミョウ	ハンミョウ 他	2	2	2
	オサムシ	オオオサムシ 他	26	28	45
	ホソクビゴミムシ	ミイデラゴミムシ	0	1	1
	ゲンゴロウ	コシマゲンゴロウ	0	1	1
	ガムシ	コモンシジミガムシ 他	3	4	5
	シデムシ	クロシデムシ 他	1	4	4
	ハネカクシ	キイロハナムグリハネカクシ 他	12	13	20
	デオキノコムシ	シリアカデオキノコムシ	0	1	1
	マルハナノミ	ヒメマルハナノミ	0	1	1
	クワガタムシ	ヒラタクワガタ	0	1	1
	センチコガネ	センチコガネ 他	2	2	2
	コガネムシ	マメダルマコガネ 他	10	13	17
	ヒメドロムシ	キベリナガアシドロムシ 他	0	3	3
	タマムシ	マルガタチビタマムシ	0	1	1
	コメツキムシ	サビキコリ 他	6	8	12
	コメツキダマシ	アイヌコメツキダマシ	1	0	1
	ベニボタル	ヒメクロハナボタル	0	1	1
	ホタル	ゲンジボタル 他	1	2	2
	ジョウカイボン	ニシジョウカイボン 他	1	7	7
	コクヌスト	オオコクヌスト	1	0	1
	カッコウムシ	キオビナガカッコウムシ	0	1	1
	ケシキスイ	ホソキヒラタケシキスイ 他	2	4	5
	ネスイムシ	ヤマトネスイ 他	1	1	2
	ヒメハナムシ	キイロアシナガヒメハナムシ	0	1	1
	ムクゲキスイムシ	ハスモンムクゲキスイ	1	0	1
	コメツキモドキ	ツマグロヒメコメツキモドキ	0	1	1
	テントウムシダマシ	キボシテントウダマシ	1	0	1
	テントウムシ	クロヒメテントウ 他	4	5	8
	ミジンムシダマシ	クロミジンムシダマシ	1	0	1
	カミキリモドキ	モモブトカミキリモドキ	0	1	1
	アカハネムシ	ムナビロアカハネムシ	0	1	1
	アリモドキ	アカクビボソムシ 他	1	4	4
	ツチハンミョウ	ヒメツチハンミョウ	1	1	1
	ハムシダマシ	ヒゲブトゴミムシダマシ	0	1	1
	クチキムシ	オオクチキムシ 他	1	2	2
	ゴミムシダマシ	ゴモクムシダマシ 他	2	14	15
	カミキリムシ	セスジヒメハナカミキリ 他	3	5	8
	ハムシ	ルリクビボソハムシ 他	7	18	22
	ヒゲナガゾウムシ	ヒメセマルヒゲナガゾウムシ 他	2	0	2
	オトシブミ	ヒメクロオトシブミ	0	1	1
	ホソクチゾウムシ	ギシギシホソクチゾウムシ 他	0	2	2
	ゾウムシ	リンゴコフキゾウムシ 他	4	6	9
	オサゾウムシ	クイサビゾウムシ	0	1	1
	キクイムシ	ミカドキクイムシ 他	3	3	5

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

表 7-9-7(4) 昆虫類の確認種

目名	科名	種名	種数		
			事業計 画地内	事業計 画地外	合計 注 1)
ハチ	ヒラタハバチ	ツヤヒラタハバチ	1	0	1
	ミフシハバチ	ウンモンチュウレンジ	0	1	1
	ハバチ	メスグロシダハバチ 他	3	3	5
	コマユバチ	コマユバチ科の一(数)種	1	1	1
	ヒメバチ	クロハラヒメバチ	1	1	1
	カタビロコバチ	カタビロコバチ科の一種	1	0	1
	トビコバチ	トビコバチ科の一種	1	0	1
	コバチ上科	コバチ類の一(数)種	1	1	1
	アリガタバチ	アリガタバチ科の一種	0	1	1
	コツチバチ	オオコツチバチ	0	1	1
	ツチバチ	ヒメハラナガツチバチ 他	0	2	2
	アリ	オオハリアリ 他	17	21	23
	ベッコウバチ	オオモンクロベッコウ	1	1	1
	ドロバチ	ミカドトックリバチ 他	1	1	2
	スズメバチ	トウヨウホソアシナガバチ 他	5	8	9
	アナバチ	<i>Crossocerus</i> 属の一種	1	1	1
	ハキリバチ	バラハキリバチ	0	1	1
	ヒメハナバチ	<i>Andrena</i> 属の一種	1	0	1
	コシブトハナバチ	ケブカハナバチ 他	1	2	2
	ミツバチ	オオマルハナバチ 他	1	3	3
ハエ	ガガンボ	マダラガガンボ 他	3	6	7
	チョウバエ	チョウバエ科の一種	1	0	1
	カ	カ科の数種	0	1	1
	ブユ	<i>Simulium</i> 属の一種	1	1	1
	ヌカカ	ヌカカ科の一(数)種	1	1	1
	ユスリカ	エリユスリカ亜科の数種 他	2	2	2
	タマバエ	タマバエ科の数種	0	1	1
	ホソキノコバエ	<i>Bolitophila</i> 属の一種	0	1	1
	キノコバエ	<i>Mycetophila</i> 属の一種	0	1	1
	クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科の一(数)種	1	1	1
	ミズアブ	コウカアブ	0	1	1
	アブ	クロメクラアブ 他	2	3	3
	コガシラアブ	シバカワコガシラアブ	0	1	1
	ツリアブ	ビロウドツリアブ	1	0	1
	ムシヒキアブ	シオヤアブ 他	1	3	3
	オドリバエ	アカメセダカオドリバエ	1	1	1
	アシナガバエ	アシナガバエ科の一種	1	0	1
	ヤリバエ	ヤリバエ科の一種	0	1	1
	ノミバエ	ノミバエ科の一種	1	1	1
	ハナアブ	ホソヒラタアブ 他	2	5	6
	ヤチバエ	ヤチバエ科の一種	1	0	1
	シマバエ	ヒラヤマシマバエ 他	0	2	2
	クロツヤバエ	クロツヤバエ科の一(数)種	1	1	1
	ホソショウジョウバエ	モンホソショウジョウバエ	0	1	1
	ショウジョウバエ	キイロショウジョウバエ	1	1	1
	ヒゲブトコバエ	クロメマトイ	0	1	1
	ハヤトビバエ	ハヤトビバエ科の一種	0	1	1

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

表 7-9-7(5) 昆虫類の確認種

目名	科名	種名	種数		
			事業計画地内	事業計画地外	合計 注 1)
ハエ	イエバエ	<i>Coenosia</i> 属の一種	0	1	1
	クロバエ	クロバエ科の一種	0	1	1
	ニクバエ	<i>Parasarcophaga</i> 属の一種	0	1	1
	ヤドリバエ	ノコギリハリバエ	1	1	1
トビケラ	ヤマトビケラ	<i>Glossosoma</i> 属の一種	1	1	1
	ナガレトビケラ	<i>Rhyacophila</i> 属の数種	1	0	1
	カワトビケラ	カワトビケラ科の一種	0	1	1
	ヒメトビケラ	ヒメトビケラ科の一種	0	1	1
	ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	0	1	1
	シマトビケラ	コガタシマトビケラ 他	2	3	3
	アシエダトビケラ	アシエダトビケラ科の一種	0	1	1
	ヒゲナガトビケラ	ナガツノヒゲナガトビケラ 他	3	1	3
	エグリトビケラ	ニンギョウトビケラ	1	1	1
	カクツツトビケラ	ヒロオカクツツトビケラ	0	1	1
チョウ	ハマキガ	チャハマキ 他	0	3	3
	キバガ	キバガ科の数種	0	1	1
	イラガ	クロシタアオイラガ 他	1	1	2
	マドガ	ヒメマダラマドガ	1	0	1
	メイガ	クロスジツトガ 他	24	30	42
	トリバガ	<i>Platyptilia</i> 属の一種	0	1	1
	セセリチョウ	ヒメキマダラセセリ 他	1	4	4
	アゲハチョウ	アオスジアゲハ 他	2	6	7
	シロチョウ	ツマグロキチョウ 他	4	5	5
	シジミチョウ	ルリシジミ 他	3	6	6
	テングチョウ	テングチョウ本土亜種	0	1	1
	タテハチョウ	サカハチチョウ 他	2	10	10
	ジャノメチョウ	クロヒカゲ本土亜種 他	1	7	7
	カギバガ	マエキカギバ 他	2	1	3
	トガリバガ	マユミトガリバ	1	0	1
	シャクガ	ホソバハラアカアオシャク 他	20	29	41
	アゲハモドキガ	アゲハモドキ 他	1	2	2
	カレハガ	マツカレハ 他	2	0	2
	オビガ	オビガ	0	1	1
	カイコガ	クワコ 他	0	2	2
	ヤママユガ	オオミズアオ本州亜種 他	1	2	2
	スズメガ	エビガラスズメ 他	3	4	6
	シャチホコガ	セグロシャチホコ 他	2	5	5
	ドクガ	スカシドクガ 他	6	6	10
	ヒトリガ	アカスジシロコケガ 他	5	9	11
	コブガ	クロスジシロコブガ	0	1	1
	ヤガ	シロシタケンモン 他	32	45	62
合計 19 目 213 科 793 種			382	632	793

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

注) 1. 属（亜科、科）までしか同定されていない種については、同一属（亜科、科）内の他種が確認されている場合、種数として計上していない。

2. コバチ上科〔コバチ類の一（数）種〕については、1 科 1 種として計上した。

② バイトトラップ調査結果

バイトトラップ法により捕獲された昆虫類は、表 7-9-8 示すとおり、事業計画地内では 7 目 31 科 77 種、事業計画地外では 7 目 22 科 48 種であり、合計は 9 目 36 科 97 種であった。

確認された昆虫類は、いずれも広島市北部の丘陵地、低山地から山地にかけて普通に生息する種であった。目別にみるとコウチュウ目の種数が多く、中でもオサムシ科とハネカクシ科の種数が多くなっていた。地点別にみると St. 3 の種数が最も多く、St. 4 の種数が最も少なくなっていた。

表 7-9-8 バイトトラップにより確認された昆虫類

目名	科名	種名	種数							合計 注 1)
			事業計画地内				事業計画地外			
			St. 1	St. 2	St. 3	計	St. 4	St. 5	計	
トビムシ	イボトビムシ	イボトビムシ科の一種	0	0	1	1	1	1	1	1
	ツチトビムシ	ヒメツチトビムシ亜科の一種 他	0	1	1	2	1	0	1	2
	トゲトビムシ	Tomocerus 属の一種(数)種	1	1	1	1	1	1	1	1
	アヤトビムシ	Entomobrya 属の一種(数)種 他	1	1	1	1	1	2	2	2
	マルトビムシ	Ptenothrix 属の一種	0	1	1	1	1	1	1	1
イシノミ	イシノミ	Pedetontinus 属の一種 他	0	0	0	0	0	2	2	2
コキブアリ	チャバネコキブアリ	モリチャバネコキブアリ	0	0	0	0	0	1	1	1
カマキリ	カマキリ	コカマキリ	0	0	1	1	0	0	0	1
ハニッパ	カマトウマ	カマトウマ 他	1	1	0	1	0	2	2	2
	ヒシハニッパ	コバネヒシハニッパ 他	1	0	0	1	0	1	1	2
カメムシ	アブラムシ	マメアブラムシ 他	1	1	0	2	0	0	0	2
	ツチカメムシ	ヒメツチカメムシ 他	1	1	0	2	0	0	0	2
コウチュウ	オサムシ	オオオサムシ 他	4	2	13	14	1	4	5	14
	ハネカクシ	キロハナムグシハネカクシ 他	6	4	3	11	1	3	4	13
	センシコガネ	センシコガネ 他	1	2	2	2	2	2	2	2
	コガネムシ	マメタテコガネ 他	1	1	3	4	0	1	1	5
	ケンキスイ	ホソキヒラタケキスイ 他	0	1	1	2	1	2	3	4
	ネズミシ	ヤマトネズイ	0	0	1	1	0	0	0	1
	ヒメハナムシ	キロアシナガヒメハナムシ	0	0	0	0	0	1	1	1
	ムクゲキスイムシ	ハスモンムクゲキスイ	0	1	1	1	0	0	0	1
	テントウムシダマシ	キボシテントウダマシ	0	0	1	1	0	0	0	1
	ミジノムシダマシ	クロミジノムシダマシ	0	1	0	1	0	0	0	1
	ツチハニッパ	ヒメツチハニッパ	0	0	0	0	0	1	1	1
	ハムシ	ツバノミハムシ 他	1	0	1	2	0	0	0	2
	ゾウムシ	リンゴコフゾウムシ 他	0	1	1	2	0	0	0	2
	キクイムシ	トビマツオキクイムシ 他	2	2	2	3	0	0	0	3
ハチ	カタビロコバチ	カタビロコバチ科の一種	0	1	0	1	0	0	0	1
	トビコバチ	トビコバチ科の一種	1	0	0	1	0	0	0	1
	コバチ上科	コバチ類の一種(数)種	1	0	1	1	0	1	1	1
	アリ	オオハリアリ 他	10	8	10	12	12	10	14	18
ハエ	チョウバエ	チョウバエ科の一種	1	0	0	1	0	0	0	1
	ブユ	Simulium 属の一種	0	1	0	1	0	0	0	1
	スカカ	スカカ科の一種(数)種	0	0	0	0	0	1	1	1
	クロハネコバエ	クロハネコバエ科の一種(数)種	1	1	1	1	1	1	1	1
	ノミバエ	ノミバエ科の一種	1	0	0	1	0	1	1	1
	ショウジョウバエ	キロショウジョウバエ	1	0	1	1	1	1	1	1
合計 9 目 36 科 97 種			37	33	48	77	24	40	48	97

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

注) 1. 属（亜科、科）までしか同定されていない種については、同一属（亜科、科）内の他種が確認されている場合、種数として計上していない。

2. コバチ上科 [コバチ類の一種(数)種] については、1 科 1 種として計上した。

③ ライトトラップ調査結果

ライトトラップ法により捕獲された昆虫類は、表 7-9-9(1)～表 7-9-9(3)に示すとおり、事業計画地内では 10 目 66 科 181 種、事業計画地外では 12 目 98 科 308 種であり、合計は 12 目 116 科 398 種であった。

確認された昆虫類の大部分は、広島市北部の丘陵地、低山地から山地にかけて普通に生息する種であった。目別にみるとチョウ目の種数が最も多く、次いでコウチュウ目、カメムシ目が多くなっていた。地点別にみると St. B の種数が多くなっていた。

表 7-9-9(1) ライトトラップにより確認された昆虫類

目名	科名	種名	種数		
			事業計画地内	事業計画地外	合計 注 1)
			St. A	St. B	
カゲロウ	ヒトリガカゲロウ	チラカゲロウ	0	1	1
	ヒラタカゲロウ	ヒラタカゲロウ科の数種	0	1	1
	カワカゲロウ	キイロカワカゲロウ	1	1	1
	モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ	0	1	1
	マダラカゲロウ	オオマダラカゲロウ	0	1	1
カワゲラ	オナシカワゲラ	<i>Nemoura</i> 属の一種 他	0	2	2
バッタ	コオロギ	ハラオカメコオロギ 他	5	4	6
	クサヒバリ	クサヒバリ	0	1	1
	キリギリス	ヒメツユムシ 他	1	2	3
	バッタ	ハネナガイナゴ	1	0	1
	ヒシバッタ	ハネナガヒシバッタ 他	2	0	2
ハサミムシ	クロハサミムシ	チビハサミムシ	0	1	1
チャタテムシ	ホソチャタテ	ハグルマチャタテ 他	2	1	2
カメムシ	ヒシウンカ	ヤナギカワウンカ	0	1	1
	ウンカ	エゾナガウンカ 他	0	3	3
	シマウンカ	シマウンカ	0	1	1
	ハネナガウンカ	アカメガシワハネビロウンカ	0	1	1
	コガシラウンカ	ナワコガシラウンカ	1	0	1
	グンバイウンカ	タテスジグンバイウンカ	0	1	1
	アオバハゴロモ	アオバハゴロモ	1	0	1
	ハゴロモ	ベッコウハゴロモ	0	1	1
	アワフキムシ	ホシアワフキ 他	0	2	2
	アオズキンヨコバイ	アオズキンヨコバイ	0	1	1
	ブチマクヨコバイ	ブチマクヨコバイ	1	0	1
	オオヨコバイ	オオヨコバイ	0	1	1
	ヒメヨコバイ	スズキヒメヨコバイ 他	2	8	8
	ヨコバイ	アカカスリヨコバイ 他	2	6	6
	ミズムシ	コミズムシ	0	1	1
	カスミカメムシ	アカホシカスミカメムシ 他	0	4	4
	ナガカメムシ	<i>Nysius</i> 属の一種 他	2	1	3
	オオホシカメムシ	ヒメホシカメムシ 他	1	2	2
	ホソヘリカメムシ	クモヘリカメムシ	0	1	1
	ツチカメムシ	ヨコヅナツチカメムシ 他	1	3	3
	カメムシ	クサギカメムシ 他	4	4	4
	ツノカメムシ	ヒメツノカメムシ 他	2	2	2
アミメカゲロウ	ヒロバカゲロウ	ヒロバカゲロウ科の一種	1	0	1
	クサカゲロウ	クサカゲロウ科の一種	0	1	1
	ツノトンボ	オオツノトンボ	0	1	1

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

表 7-9-9(2) ライトトラップにより確認された昆虫類

目名	科名	種名	種数		
			事業計画 地内	事業計画 地外	合計 注 1)
			St. A	St. B	
コウチュウ	オサムシ	ムネミゾマルゴミムシ 他	6	14	18
	ホソクビゴミムシ	ミイデラゴミムシ	0	1	1
	ゲンゴロウ	コシマゲンゴロウ	0	1	1
	ガムシ	コモンシジミガムシ 他	2	4	5
	シデムシ	クロシデムシ 他	1	4	4
	ハネカクシ	チビニセユミセミゾハネカクシ 他	1	7	7
	コガネムシ	ゴホンダイコクコガネ 他	5	12	13
	ヒメドロムシ	キベリナガアシドロムシ 他	0	3	3
	コメツキムシ	サビキコリ 他	1	1	2
	コメツキダマシ	アイヌコメツキダマシ	1	0	1
	ジョウカイボン	ニシジョウカイボン 他	1	3	4
	コクヌスト	オオコクヌスト	1	0	1
	ネスイムシ	チビネスイ	0	1	1
	テントウムシ	ナミテントウ 他	1	1	2
	アリモドキ	アカクビボソムシ	1	0	1
	ツチハンミョウ	ヒメツチハンミョウ	0	1	1
	ハムシダマシ	ヒゲブトゴミムシダマシ	0	1	1
	ゴミムシダマシ	ヤマトスナゴミムシダマシ 他	1	5	5
	カミキリムシ	セスジヒメハナカミキリ 他	1	1	2
	ハムシ	クロボシツツハムシ 他	0	5	5
	ヒゲナガゾウムシ	ヒメセマルヒゲナガゾウムシ	1	0	1
	ホソクチゾウムシ	モンチビゾウムシ	0	1	1
	ゾウムシ	マツノシラホシゾウムシ	1	0	1
	キクイムシ	ツヤナシキクイムシ	0	1	1
ハチ	ハバチ	ハバチ科の数種	0	1	1
	コマユバチ	コマユバチ科の一(数)種	1	1	1
	ヒメバチ	ヒメバチ科の一(数)種	1	1	1
	アリ	クロオオアリ	1	1	1
ハエ	ガガンボ	マダラガガンボ 他	2	5	5
	カ	カ科の数種	0	1	1
	ブユ	Simulium 属の一種	1	1	1
	ヌカカ	ヌカカ科の一(数)種	1	1	1
	ユスリカ	エリユスリカ亜科の数種 他	2	2	2
	タマバエ	タマバエ科の数種	0	1	1
	キノコバエ	キノコバエ科の一(数)種	0	1	1
	クロバネキノコバエ	クロバネキノコバエ科の一(数)種	1	1	1
	アブ	ウシアブ	0	1	1
	オドリバエ	アカメセダカオドリバエ	1	1	1
	アシナガバエ	アシナガバエ科の一種	1	0	1
	ヤリバエ	ヤリバエ科の一種	0	1	1
	ノミバエ	ノミバエ科の一種	1	0	1
	ヤチバエ	ヤチバエ科の一種	1	0	1
	シマバエ	ヤブクロシマバエ	0	1	1
	クロツヤバエ	クロツヤバエ科の一(数)種	1	1	1
	ホソショウジョウバエ	モンホソショウジョウバエ	0	1	1
	ショウジョウバエ	キイロショウジョウバエ	1	1	1
	ハヤトビバエ	ハヤトビバエ科の一種	0	1	1
	ヤドリバエ	ノコギリハリバエ	1	1	1

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

表 7-9-9(3) ライトトラップにより確認された昆虫類

目名	科名	種名	種数		
			事業計画 地内	事業計画 地外	合計 (注 1)
			St. A	St. B	
トビケラ	ヤマトビケラ	<i>Glossosoma</i> 属の一種	1	1	1
	ナガレトビケラ	<i>Rhyacophila</i> 属の数種	1	0	1
	カワトビケラ	カワトビケラ科の一種	0	1	1
	ヒメトビケラ	ヒメトビケラ科の一種	0	1	1
	ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ	0	1	1
	シマトビケラ	コガタシマトビケラ 他	2	3	3
	アシエダトビケラ	アシエダトビケラ科の一種	0	1	1
	ヒゲナガトビケラ	ナガツノヒゲナガトビケラ 他	3	1	3
	エグリトビケラ	ニンギョウトビケラ	1	1	1
	カクツツトビケラ	ヒロオカクツツトビケラ	0	1	1
チョウ	ハマキガ	チャハマキ 他	0	3	3
	キバガ	キバガ科の数種	0	1	1
	イラガ	クロシタアオイラガ 他	1	1	2
	マドガ	ヒメマダラマドガ	1	0	1
	メイガ	クロスジツトガ 他	24	30	42
	トリバガ	<i>Platyptilia</i> 属の一種	0	1	1
	カギバガ	マエキカギバ 他	2	1	3
	トガリバガ	マユミトガリバ	1	0	1
	シャクガ	ホソバハラアカアオシャク 他	20	29	41
	アゲハモドキガ	アゲハモドキ 他	1	2	2
	カレハガ	マツカレハ 他	2	0	2
	オビガ	オビガ	0	1	1
	カイコガ	クワコ 他	0	2	2
	ヤママユガ	オオミズアオ本州亜種 他	1	2	2
	スズメガ	エビガラスズメ 他	3	3	5
	シャチホコガ	セグロシャチホコ 他	2	5	5
	ドクガ	スカシドクガ 他	6	6	10
	ヒトリガ	アカスジシロコケガ 他	5	9	11
	コブガ	クロスジシロコブガ	0	1	1
	ヤガ	シロシタケンモン 他	32	45	62
合計 12 目 116 科 398 種			181	308	398

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

注) 1. 属（亜科、科）までしか同定されていない種については、同一属（亜科、科）内の他種が確認されている場合、種数として計上していない。

④ ギフチョウ調査結果

ギフチョウは広島市の山地部にも広く分布するため、事業計画地及びその周辺でもギフチョウの生息が予想されたことから、ギフチョウを対象として調査を実施した。

春季の昆虫類調査時において成虫は確認されなかった。また、本種の幼虫の食草の一つであるミヤコアオイは事業計画地及びその周辺に広く分布していたが（第 7 章 7.10 植物 図 7-10-6 植物重要種確認位置図を参照）、ギフチョウの卵と幼虫は確認されなかった。

(6) 魚類

事業計画地及びその周辺で確認された魚類は表 7-9-10 に示すとおり、事業計画地内では魚類の生息は確認されず、事業計画地外では 2 目 3 科 4 種であった。

調査結果によると、No.2 では 1 種、No.3 では 4 種の魚類の生息を確認した。

表 7-9-10 魚類の確認種

目名	科名	種名	調査地点		
			事業計画地内	事業計画地外	
			No. 1	No. 2	No. 3
コイ	コイ	タカハヤ		●	●
		カワムツ			●
	ドジョウ	ドジョウ			●
スズキ	ハゼ	カワヨシノボリ			●
合計 2 目 3 科 4 種			0 種	1 種	4 種

(7) 底生動物

事業計画地及びその周辺で確認された底生動物は、表 7-9-11 に示すとおり、事業計画地内は 11 目 26 科 31 種、事業計画地外は 13 目 31 科 46 種であり、合計は 14 目 41 科 63 種であった。

確認された底生動物はいずれも低山地～山地に見られる普通種であった。門別にみると節足動物門が多く、中でもカゲロウ目、ハエ目、トビケラ目の種数が多くなっており、河川上流～源流域の一般的な様相を呈していた。

表 7-9-11 底生動物の確認種

門名	目名	科名	種名	種数					
				事業計画 地内	事業計画地外			合計 注 1)	
					No. 1	No. 2	No. 3		計
扁形動物	ウスムシ	サンカクアタムスムシ	ナミウスムシ	1	1	1	1	1	
袋形動物	—	—	ハリカネムシ綱の一種	0	0	1	1	1	
環形動物	オヨキミズ	オヨキミズ	オヨキミズ科の一種(数)種	1	1	1	1	1	
	ナカミズ	ナカミズ	ナカミズ科の一種	1	0	0	0	1	
		イトミズ	イトミズ科の一種	0	0	1	1	1	
		ミスミズ	ミスミズ科の一種	0	0	1	1	1	
		ツリミズ	ツリミズ科の一種	0	1	0	1	1	
	咽蛭	イシビル	イシビル科の一種	0	0	1	1	1	
節足動物	ワラシムシ	ミスムシ	ミスムシ	0	1	1	1	1	
	ヨコエビ	ヨコエビ	ニッポノヨコエビ	1	0	0	0	1	
	エビ	サワガニ	サワガニ	1	1	1	1	1	
	カゲロウ	フタオカゲロウ	ヒメフタオカゲロウ属の一種	1	0	1	1	1	
		コカゲロウ	フタバコカゲロウ 他	2	2	2	3	3	
		ヒトリカゲロウ	チヲカゲロウ	0	0	1	1	1	
		ヒラタカゲロウ	クロタニカワカゲロウ 他	2	1	2	2	3	
		トビイロカゲロウ	トビイロカゲロウ属の一種	1	0	1	1	1	
		モンカゲロウ	フタスシモンカゲロウ	1	0	0	0	1	
		マダラカゲロウ	シリナカマダラカゲロウ 他	0	1	5	5	5	
		トンボ	カワトンボ	ニシカワトンボ	0	0	1	1	1
			ムカシトンボ	ムカシトンボ	1	0	0	0	1
	サナエトンボ		クロサナエ	1	1	0	1	1	
	オニヤンマ		オニヤンマ	0	1	0	1	1	
	ヤンマ		コシボソヤンマ 他	1	1	1	2	2	
	カワゲラ	オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属の一種 他	2	1	2	2	2	
		アミメカワゲラ	アミメカワゲラモドキ属の一種	0	0	1	1	1	
		カワゲラ	ヤマトカワゲラ 他	2	0	0	0	2	
		ミドリカワゲラ	ミドリカワゲラ科の一種	0	0	1	1	1	
	アミメカゲロウ	ヘビトンボ	ヘビトンボ 他	1	1	1	1	2	
	ハエ	ガガンボ	ガガンボ属の一種 他	1	2	2	2	2	
		アミカ	アミカ科の一種	0	0	1	1	1	
		カ	カ科の一種	1	0	0	0	1	
		フユ	アシマダラフユ属の一種(数)種	1	1	1	1	1	
		ヌカカ	ヌカカ科の一種	1	0	0	0	1	
		ユスリカ	モンユスリカ亜科の一種 他	2	2	4	4	6	
		トビケラ	ヤマトビケラ	ヤマトビケラ属の一種	1	0	0	0	1
			ナカレトビケラ	レゼイナカレトビケラ 他	1	0	1	1	2
			カワトビケラ	タニカワトビケラ属の一種	1	0	0	0	1
	クダトビケラ		クダトビケラ科の一種	0	0	1	1	1	
	シマトビケラ		コガタシマトビケラ属の一種 他	1	2	2	2	3	
	エグリトビケラ		ニンギョウトビケラ 他	0	0	2	2	2	
	カクツツトビケラ		カクツツトビケラ属の一種	1	0	0	0	1	
	合計		14 目 41 科 63 種	31	21	41	46	63	

注 1) 合計は総種数であり、事業計画地内と事業計画地外の和と一致しない。

注) 1. 属(亜科、科)までしか同定されていない種については、同一属(亜科、科)内の他種が確認されている場合、種数として計上していない。

7.9.3 重要種（動物）

現地調査で確認された動物について、表 7-9-12 に示す選定基準に従い、重要種の選定を行った。

その結果、哺乳類は 1 種、鳥類は 13 種、爬虫類は 1 種、両生類は 4 種、昆虫類は 5 種が選定され、魚類及び底生動物における重要種は選定されなかった。

また、既存資料「広島市の生物（広島市，2000）」によれば、事業計画地及びその周辺では学術上重要とされている動物〔哺乳類 1 種（ツキノワグマ）、昆虫類 1 種（ゲンジボタル）、魚類 2 種（イシドジョウ、アカザ）〕の分布が確認されており、これらも重要な種として選定したが、現地調査ではゲンジボタル以外は確認されなかった。

選定した重要種一覧は表 7-9-13 に示すとおりである。事業計画地及びその周辺における重要種の確認位置を、哺乳類は図 7-9-6 に、鳥類は図 7-9-7～図 7-9-8 に、爬虫類は図 7-9-9 に、両生類は図 7-9-10～図 7-9-12 に、昆虫類は図 7-9-13 にそれぞれに示す。

表 7-9-12 重要種（動物）の選定基準

I	「文化財保護法」および「文化財保護条例」による指定種 特：国指定特別天然記念物 国：国指定天然記念物 県：県指定天然記念物
II	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」における希少野生動植物種 1：国内希少野生動植物種 2：国際希少野生動植物種 3：緊急指定種
III	・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー1 哺乳類（環境省，2002）」掲載種 ・「鳥類レッドリスト（環境省ホームページ上，2006）」掲載種 ・「爬虫類レッドリスト（環境省ホームページ上，2006）」掲載種 ・「両生類レッドリスト（環境省ホームページ上，2006）」掲載種 ・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー4 汽水・淡水魚類（環境省，2003）」掲載種 ・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー5 昆虫類（環境省，2006）」掲載種 ・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックー6 陸・淡水産貝類（環境省，2005）」掲載種 ・「その他無脊椎動物レッドリスト（環境省ホームページ上，2006）」掲載種 CR：絶滅危惧ⅠA類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種） EN：Ⅱ類（ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種） VU：Ⅲ類（絶滅の危険が増大している種） NT：準絶滅危惧（現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い個体群）
IV	「改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物ーレッドデータブックひろしま2003ー（広島県，2004）」における選定種 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（絶滅の危機に瀕している種） VU：絶滅危惧Ⅱ類（絶滅の危険が増大している種） NT：準絶滅危惧（存続基盤が脆弱な種） DD：情報不足（評価するだけの情報が不足している種） LP：絶滅のおそれのある地域個体群（地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高い個体群）
V	「広島県野生生物の種の保護に関する条例」に指定されている野生動植物種 指定：指定野生生物種 特定：特定野生生物種
VI	「広島市の生物 補遺版（広島市，2006）」 1：絶滅危惧（現在の状態をもたらず圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来に市域での個体群の存続が危ぶまれる。） 2：準絶滅危惧（現時点での危険度は小さいが、生育・生息条件の変化により上位ランクに移行する可能性が高い。） 3：軽度懸念（市域では、存続基盤が比較的安定している。） 4：情報不足（希少な種であるが、市域での現状が不明である。） 5：環境指標種（種（個体群）そのものは絶滅の危険性が大きいものではないが、その種（個体群）に注目することによって、特異な環境、生物多様性、二次的自然等の観点から、重要と判定される自然環境の維持に貢献しうる。） 6：自然誌構成種（自然環境保全の対象として取り上げる要件を満たしていないが、広島市の自然環境を理解するうえで重要と判断できるもの。）

表 7-9-13 重要種（動物）一覧表

分類	科名	種名	現地調査	既存資料	選定基準					
					I	II	III	IV	V	VI
哺乳類	クマ	ツキノワグマ	—	●	—	2	LP	CR+EN	指定	4
	イタチ	イタチ属の一種	●	—	—	—	—	NT	—	4
鳥類	タカ	ミサゴ	●	—	—	—	NT	NT	—	3
		ハチクマ	●	—	—	—	NT	NT	—	4
		オオタカ	●	—	—	1	NT	VU	—	4
		ハイタカ	●	—	—	—	NT	NT	—	4
		ノスリ	●	—	—	—	—	—	—	6
		サシバ	●	—	—	—	VU	DD	—	4
	ハヤブサ	ハヤブサ	●	—	—	1	VU	VU	—	4
	キジ	ヤマドリ	●	—	—	—	—	NT	—	4
	カッコウ	ホトトギス	●	—	—	—	—	—	—	6
	フクロウ	フクロウ	●	—	—	—	—	—	—	4
	カワセミ	アカショウビン	●	—	—	—	—	—	—	4
	キツツキ	オオアカゲラ	●	—	—	—	—	NT	—	4
	ヒタキ	サンコウチョウ	●	—	—	—	—	NT	—	4
爬虫類	トカゲ	トカゲ	●	—	—	—	—	NT	—	2
両生類	サシウオ	ブチサンショウウオ	●	—	—	—	NT	—	—	—
	イモリ	イモリ	●	—	—	—	NT	NT	—	5
	アカガエル	トノサマガエル	●	—	—	—	—	NT	—	5
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	●	—	—	—	—	—	—	6
昆虫類	キリギリス	カヤキリ	●	—	—	—	—	NT	—	—
	バッタ	トノサマバッタ	●	—	—	—	—	—	—	5
	ホタル	ゲンジボタル	●	●	—	—	—	—	—	5
		ヘイケボタル	●	—	—	—	—	—	—	5
	シロチョウ	ツマグロキチョウ	●	—	—	—	VU	—	—	—
魚類	ドジョウ	イシドジョウ	—	●	—	—	EN	VU	—	1
	アカザ	アカザ	—	●	—	—	VU	CR+EN	—	1
底生動物	選定されず。		—	—	—	—	—	—	—	—

注) 1. 選定基準の詳細は、「表 7-9-12 重要種（動物）の選定基準」参照。

2. イタチ属の一種をイタチとした場合。

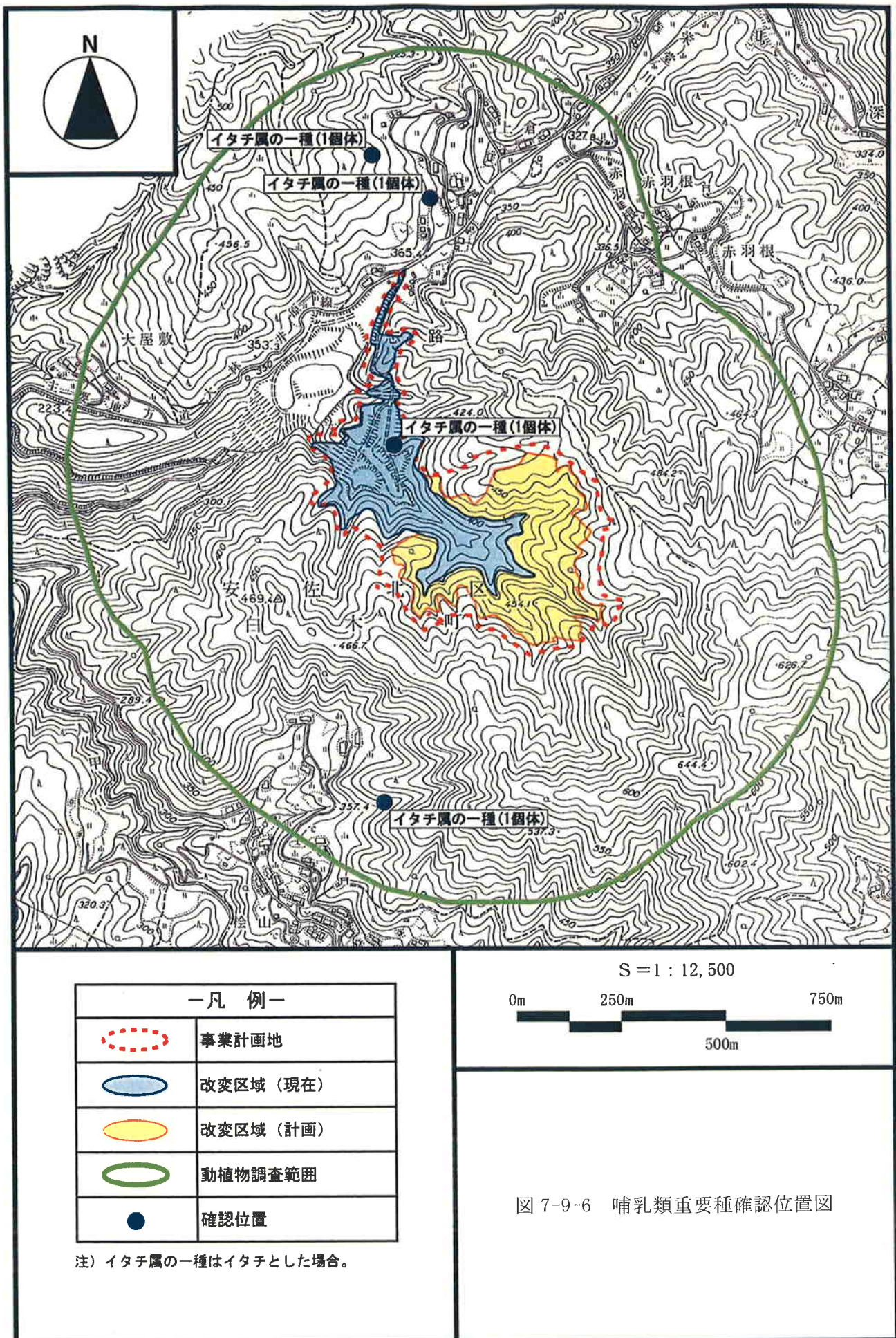
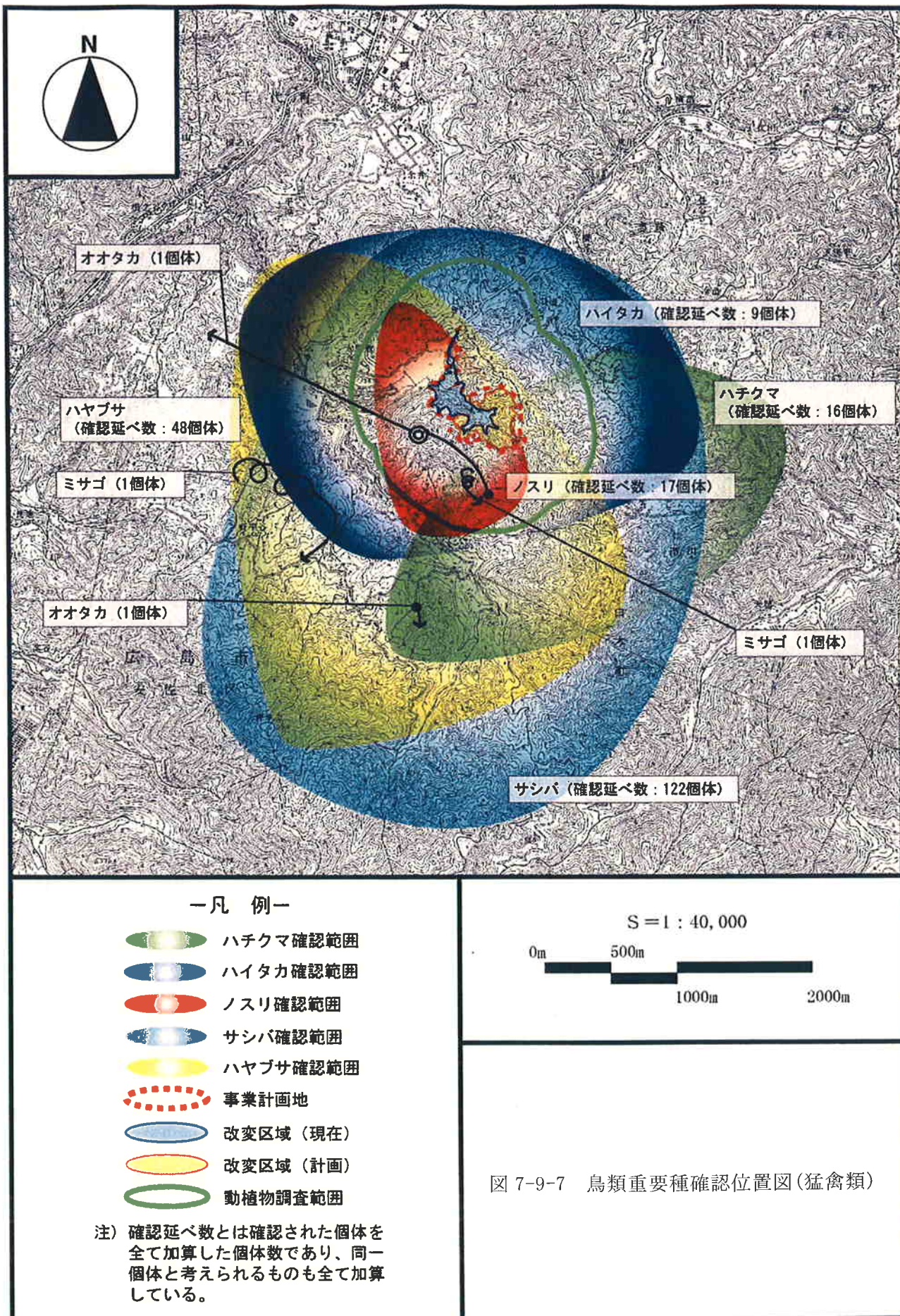


図 7-9-6 哺乳類重要種確認位置図



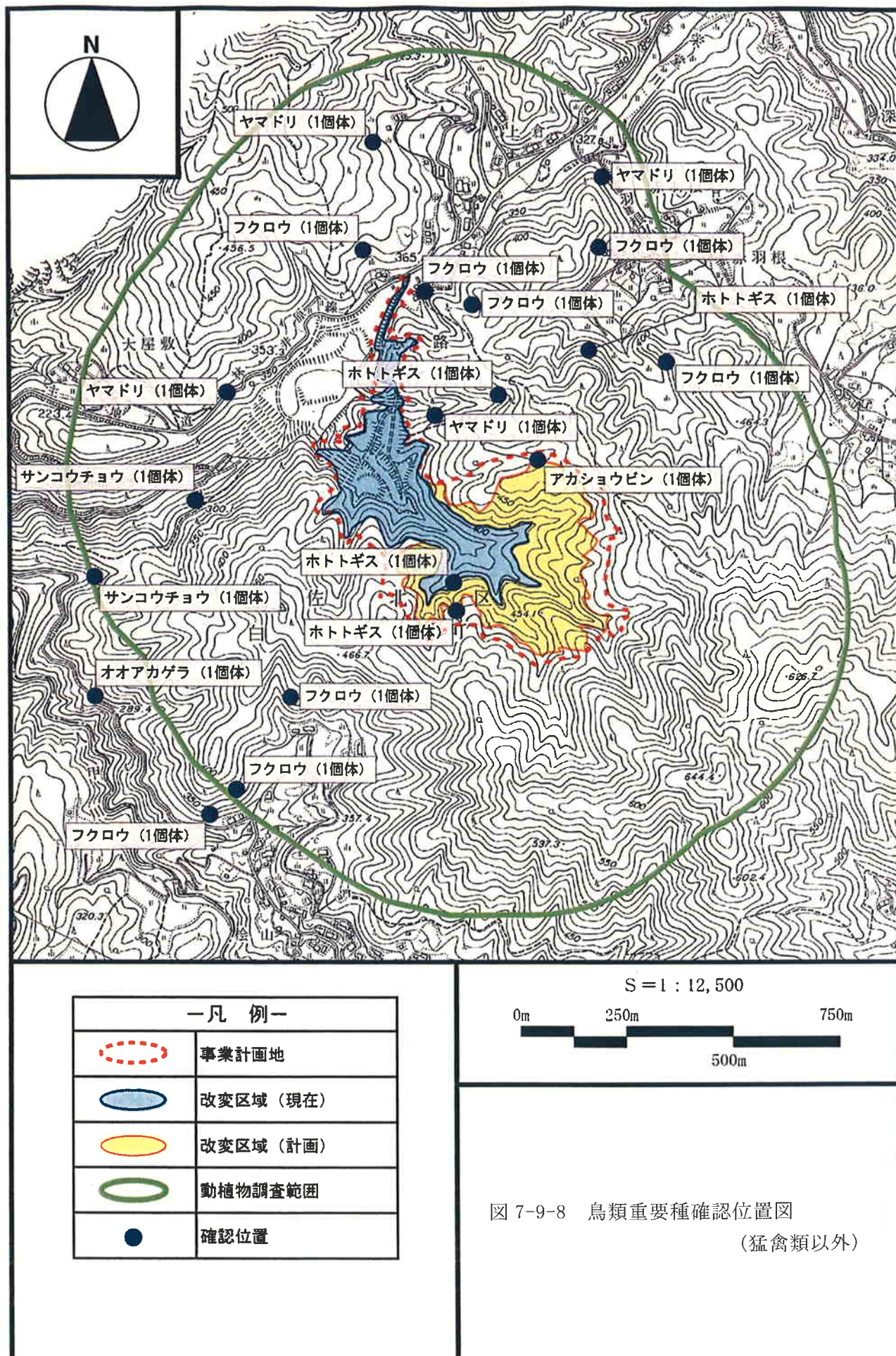
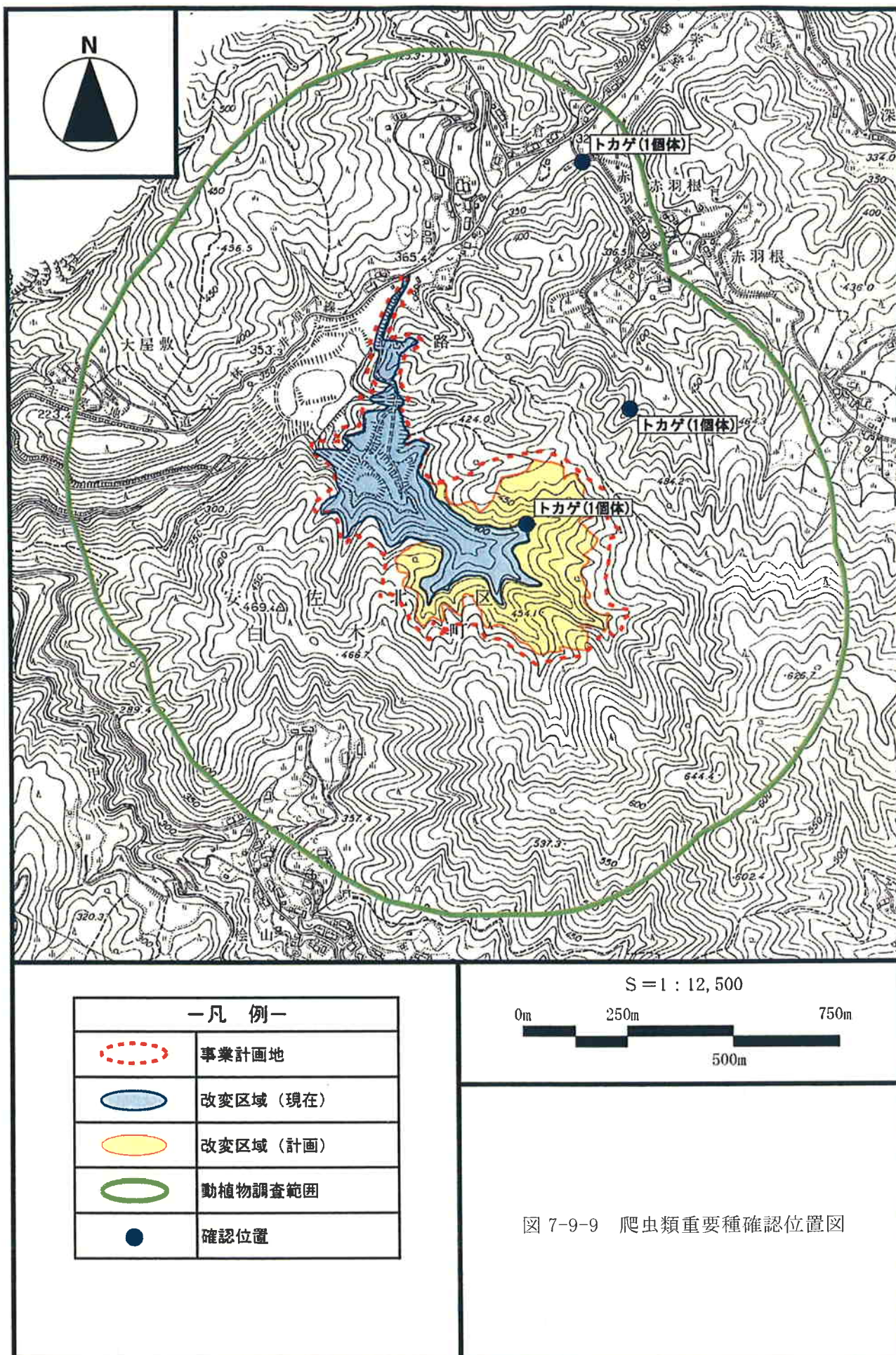


図 7-9-8 鳥類重要種確認位置図
(猛禽類以外)



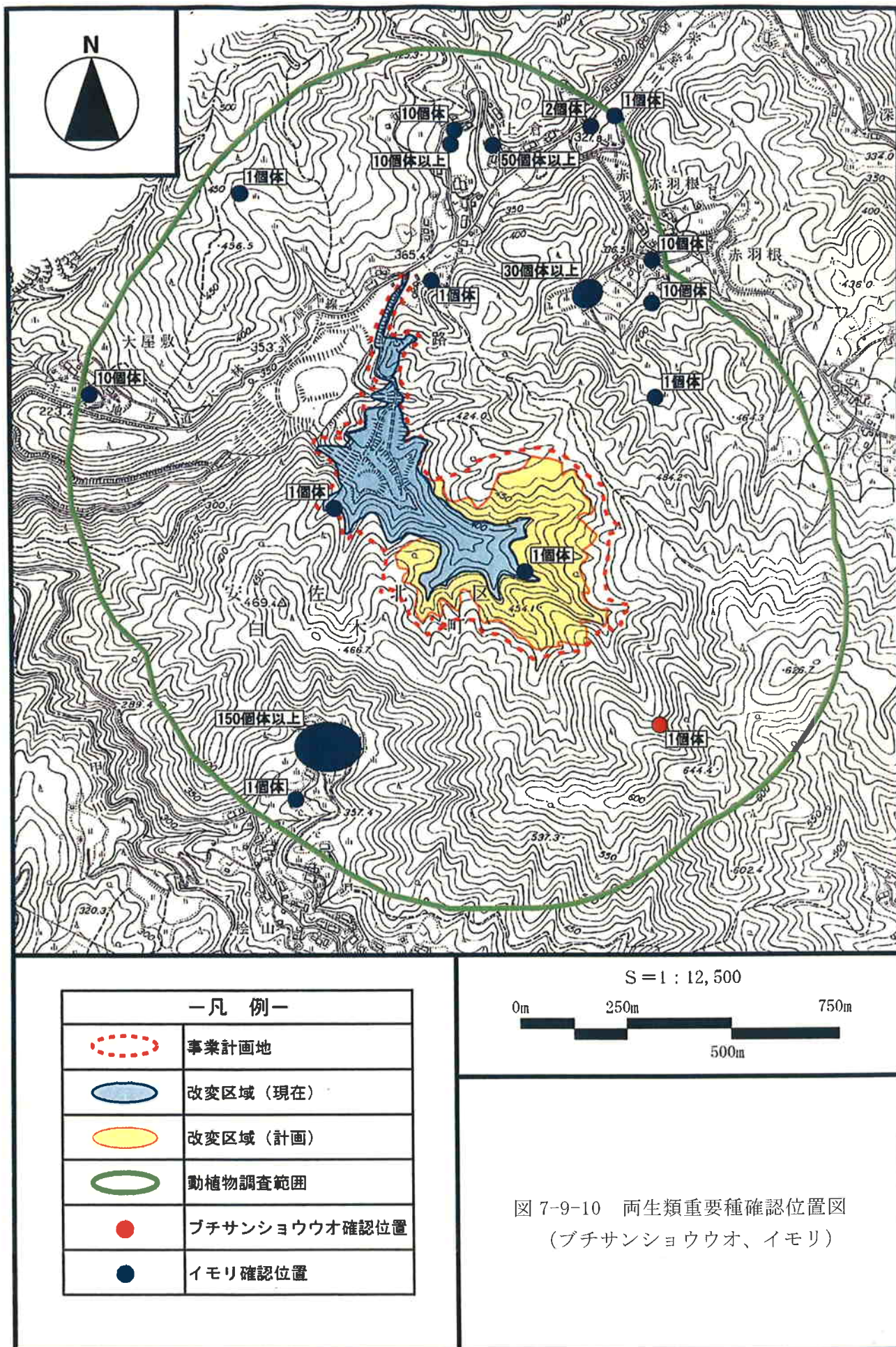


図 7-9-10 両生類重要種確認位置図
(ブチサンショウウオ、イモリ)

